

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。よいよ今年もあとわずか。寒い日が増えました。くれぐれもご自愛ください。昨年から般若心経の意を学んできたかわら版。ご心経は、生き方や社会のあり方を考える際の道標(みちしるべ)です。最近では仏教ブームとも言われています。それはそうなんです。僕のような者までこうして仏教にまつわる「かわら版」を書いていくくらいです。人々が何かを仏教に求めているのかもしれない。仏教は学んで理解する対象ではありません。人の心に問いかけるもの、生き方を考える道標、自分の生き様を省みる心の声。昨年来ご紹介してきた心経二百七十字が説く教えから、何かを自分で感じ取るものであり、定番の解釈や全員に共通の受け止め方が決まってい

るわけではありません。一人ひとり、それぞれ何かを感じ入るものでしょう。五木寛之さんの「仏教のこころ」という本のタイトルに誘われ、何げなく読んでいたら、次のようなくだりが出てきました。「仏教が趣味、という人がいてもちっともかまわないが、それだけでは惜しい。仏教は真つ暗な夜の道を照らしてくれる光であってほしい。それがあることで、かろうじて生きることを投げださずに、痛みや不安に耐えていける力であってほしい。仏教ブームとは、そういう必死の思いから発生する人びとの運動である。その点から見ると、いまの仏教ブームというのが、いささか色あせて感じられないことだろうか。」

「仏教が趣味」と公言している私としては、何やら五木さんに改めて念押しされたような気がしました。出会った文豪の一文です。仏教は、何かにこだわることなく、広く穏やかな心で人や事物や社会を見つめ、病気や苦勞も含めた全ての現実と向き合い、それを無理矢理変えようとしても変わるものでもないの、それをそのまま受け入れる努力をする、その大切さを説いています。同時に、なかなかそれができないのが人間。人間の執着や愚かさを戒め、争いごとの絶えない人々(衆生)を諭しています。以上のことを、繰り返し、繰り返し返し、表現の仕方や喩えを変えつつ、説き続けているのが仏教であり、仏教の経典(お経)です。その中でも、ご心経は最も短いお経として親しまれています。衆生(人々)が救われ、世の中(社会)の争いごとを少なくするためには、一人ひとりの心の持ちよう、生き方、人間哲学が大切です。「かわら版」、今年もお世話になりました。来年もご愛顧のほど、よろしくお願い致します。それでは、良い年をお迎えください。合掌。



定員40名 第13回「弘法さんを語る会」

「四国札所巡りと般若心経」



～執筆者・大塚耕平がお話させていただきます～

12月3日 午前10時・午後1時・3時の3回開催予定 日(金/祝)

会場 山 西 専修院

お申込み先【事務局】あさい 052・757・1955 (定員になり次第締め切り)

お申込 参加無料

